

私たちは資材部会を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は会員の強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対して、積極的な協力体制を目指しています。

「VOICE」では、部会会員会社の紹介や製品が開発されるまでのエピソード等を紹介していきます。

低騒音車載用発電機

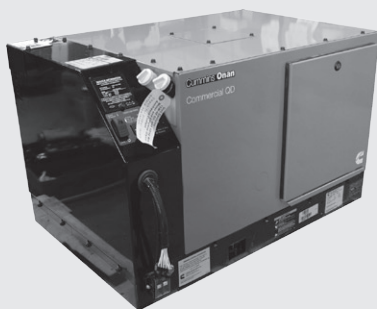
日本国内で一般的に車載用発電機が使われた歴史は、終戦直後の広島で活躍した検診車から始まった。米軍が所有していた米国製の「オナン車載用発電機」を、日本国内でバスに取り付けて検診車に改造していた当時の会社から機械サービス部門が分離独立し、現在の(株)シー・エス・シーへと受け継がれて「オナン発電機」の国内販売代理店として輸入の窓口となっている。メンテナンスやアフターサービスは100%子会社である(株)シー・エス・エンジニアリングが行っている。

■ 世界のスタンダード「オナン発電機」

ディーゼルエンジンで有名な米国カミンズ社の一部門であるオナン社が製造するオナン発電機は、キャンピングカーからレントゲン車、採血車、放送中継車など、多くの電力を必要とする車両に採用されている。特に最初から車載用として防音ボックスにパッケージされた発電機は、架装時に防音工事をする必要がないので、架装メーカーの人気の高い。こうした車載用発電機はキャンピングカーやレジャーボート文化の盛んな米国製が世界の主流となっている。

■ 安心と信頼を確保する努力

長い歴史を持ち、信頼性と耐久性に優れているオナン発電機であるが、業務用の車載発電機には、長時間の連続運転を前提とした耐久性と安定性が求められる。



防音壁で覆われた家電のような外観を持つ低騒音型車載発電機「6.5HDKAT型」



山下 毅

(株)シー・エス・シー
産業機械事業部 主任

島村 潔

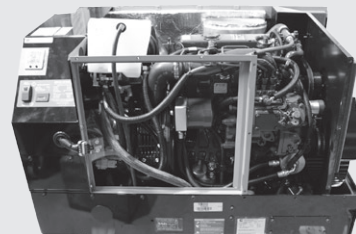
(株)シー・エス・エンジニアリング
代表取締役

西嶋 広

(株)シー・エス・エンジニアリング
統括営業部 次長

(株)シー・エス・シー

コンパクトにパッケージされた
発電機内部



車載用発電機は車両が停止した状態で使用される場合が多く、自動車のように、走行による風の流れて冷却効果を得ることができない。その上、防音壁で覆われているため、熱がこもりやすい。

献血に使用される採血車は連日朝から夕方まで、8時間におよぶ長い間、休みなく安定した稼働を続けなければならない。また救命・救助車両や中継車などでは、発電機の故障による電圧の低下や変化などのトラブルは、限りなくゼロになることが要求される。このような過酷な環境下においても安定した性能を発揮できるような優れた構造設計がなされているが、さらなる安定稼働のため、独自のテストをクリアした指定オイルの使用を強く推奨している。

長きにわたり、オナン発電機を取り扱ってきた(株)シー・エス・エンジニアリングでは「徹底した点検」と「安心のサービス・ネットワーク」を作り上げて、充実した対応を図っている。国内向けに改良した上で、様々な項目において出荷前の点検を行っている。そのため、発注を受けてから納品するまでに最大で3か月もの期間を要することもある。

海外製品は緊急時の対応や部品交換などのアフターサービスに対しての不安が大きい。この点を解決するために、全国53か所に協力店を開拓し、サービス・ネットワークを構築、専門のメンテナンス工場と部品在庫を確保してきた。定期的なメンテナンスやオーバーホールも含めたサービスによって、国内で稼働する4,000台以上の車載発電機をバックアップしている。

震災以降、車載用発電機を搭載する車両に注目が集まっている。安定した稼働を支え続けていくために、今後もサービスの充実に取り組む。

(株)シー・エス・シー 取締役社長 山口 久一

「地球環境を保護し、産業技術との共存を目指す。」をモットーに、日本のみならず世界の最適技術・製品に自らのエンジニアリング機能を付加しお届けできる真の専門商社を目指して参ります。

【本社】 〒102-0075 東京都千代田区三番町3-8 4F

Tel: 03-5215-0111 <http://www.kkccsc.co.jp/>